

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子 選

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 軽舟 選

人数の割にすすまず溝邊え

津山市 森下 弘

△評▽蚊が発生する前の町内の共同作業だから、人が集まる割にははかどらない。あるがままを詠んで、おかしみがある。

登校の列の無口や梅雨寒し

志木市 谷村 康志

△評▽列を作って登校するのは小学生。晴れの朝はにぎやかなのだが、こんな日は子ども心も憂鬱。暮れぎはの空美しき花枯櫛

葛城市 八木 誠

分けあつて妹へおまけさくらんぼ

芦屋市 水越 久哉

黒南風や言ひ訳のみのメール来る

東京 西口美砂子

露草や物干し竿の竹古び

広島市 村越 緑

梅落ちて雨音づく梅雨最中

川西市 多川 義一

青葉山背に映ゆる美術館

奈良 高尾山 昭

梔子の白き色こそ無垢の色

姫路市 多方 一博

鳥声の艶のありけり青葉山

出雲市 石原 清司

そのなかに激浪もあり青田波

東京 望月 清彦

△評▽早々とやって来る台風を思う。穏やかな風に吹かれる青田は、時として激浪というべき強風に襲われることがある。

風鈴の風の数式一つ解く

霧島市 秋野 三歩

△評▽風鈴が音を立てるたび、風の数式のひとつが解かれていく。山野を吹き渡る風の不思議。球児等の冷やし麦茶や大葉缶

倉敷市 中路 修平

梅雨晴れや父の背越しの浅間山

横浜市 もみちゃん

白杖の祖母を万縁に葬る

さいたま市 関根 道豊

見えてくる我らの下界初登山

八街市 山本 淑夫

梅雨明けや青一色の空天井

高知 渡辺 哲也

屋根替えの工事挨拶サンクラス

京都市 根来 滋

雲の峰父の位牌に峰の文字

北杜市 小松 俊隆

紫陽花やこぼれるほどの雨を抱き

東大阪市 山尾サトミ

地球儀のごとき西瓜の屈きけり

北九州市 宮上 博文

△評▽完璧な球体のものとして、地球儀とスイカは確かに共通している。届いたスイカの箱を開けた瞬間、ひらめいたのだろう。

五月雨や土手より低く人住みて

町田市 枝澤 聖文

△評▽最近雨量が増える心配になる地域が少なくない。梅雨時ならではの不安がたよう。水無月や汲み置きの水透きとほり

和歌山市 宮本 啓子

吊橋に揺れる二つの夏帽子

真岡市 小川 充

海開き供物ときをり潮を浴び

加古川市 中村 立身

葉桜や石のテーブル石の椅子

和歌山市 中筋のぶ子

駅前にケーナの色梅雨晴れ間

川越市 大野有之介

奥の院までの坂道草いきれ

和歌山 くわばらりみ

水無月や地下鉄出口雨匂ふ

前橋市 西村 晃

働かぬ輪となりて更衣

広島市 谷口 一好

梅雨の灯やぬる燭干して切り上げし

奈良市 伊東 勝

△評▽ほどよいところで切り上げられるのがよい酒飲みだ。店を出て、今日一日の締めくくりに梅雨の町の灯を眺める。

向日葵や子は一学期無欠席

千葉市 高橋 信子

△評▽元気で学校になじめたようなのが何より。夏休みを迎えた子にヒマワリがまぶしい。耳鳴りに混じる雨音梅雨寒し

真岡市 小川 充

かぜのとのおきいわきの金魚売

東京 青木 公正

月代か街の照り返しか漕ぎぬ

熊本市 夏風かをる

漣に代田の鏡曇りけり

小林市 黒木 暢

若ぶって素足に靴を履きにけり

土浦市 今泉 準一

風薫る稽古の合間面を脱ぎ

木津川市 大村 雅信

夏帽子板に付きけり独り旅

横浜市 瀬古 修治

飛べぬひな一羽残して燕の巣

磐田市 白井 善夫

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

力士はSUMOと呼ばれかりそのパリの土俵に
轟く「YOISHO」フランス 小仲 翠太
△評▽6月に開催された大相撲パリ公演である。力士がパリに行き短歌が日本に来る

七月をはだかにすれば金色の骨だけ残る聖堂
寂しさを冷凍保存したいから両手でガッツポ
イズを作る
△評▽7月は聖堂の金色の骨の美しさ、ならばもうその先はないかのようだ。8月は

宮崎 門田 藍子
△評▽普通なら早く捨てたい寂しさを「冷凍保存」したくなるのはなぜ。意表をつく

老人はサラリーマンか今日もまた昼の蕎麦屋
に駆け来て並ぶ
△評▽上二句がじつに端的に現代を感じさせる。もはやこの場面に悲哀を感じるべき

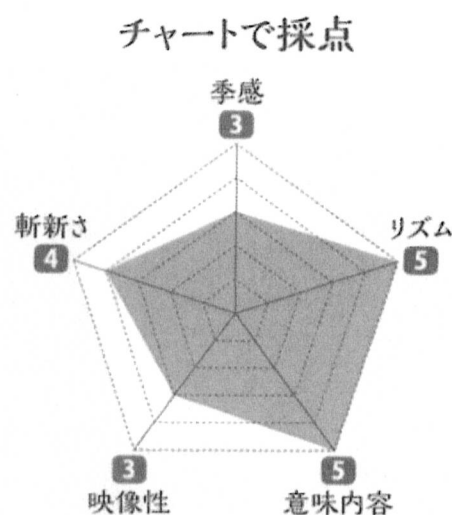


円堂実花

注目の一句

家系図に見知らぬ名前桜桃忌

冬すみれ



チャートで採点

下五の季語が、上五中七のフレーズの背景を伝える構成の句。作家・太宰治の忌日(6月19日)を指す季語の「桜桃忌」と「家系図」の取り合わせは、太宰が芸者との結婚によって生家の津島家から分家除籍されたことをいや応なしに想起させます。いくつも醜聞を起こした人だったので、津島家では彼について語ることがタブーになっていたといえます。

掲句の「見知らぬ名前」の持ち主も、一族の黒い羊だったのでしょうか。家系図に載っているのに、だれも話題に挙げたり、思い出さなかったりすることは少ない。はた目には恵まれた環境に生まれたのだからその人に、一体何があったのかと思わずにはいられません。(えんどう・みか「俳人」)

気になる3句

薔薇の香を揺らして都営荒川線
猫の墓今年も灯る初蜩
梅を干す灯台守りの官舎哉

老いた幼子
白地
すいれんなお

アプリ
俳句てふてふ



投稿はアプリから。ダウンロードはこちら

募集
戦争や集しまで受け
着)。す。

こちらから
投稿できます

